

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

○議題（1）栽培漁業の推進方向について[資料1]

番号	委員名	意見等	対応等
1	木村委員	北海道の水産業において、栽培漁業は非常に重要であり、推進の方向性に関しては問題ございません。ただ、「具体的な取組方向」の記述が、項目の記述で終わっており、具体的な取組みの中身が分かりません。最近の温暖化の加速や爆弾低気圧のような異常気象の常態化の中で、栽培漁業には具体的な対策が求められていると思います。もう少し説明があってもいいように思えます。また、この先さらに厳しくなる環境状況を見越した、取組みも検討する必要があると思います。	令和4年度からの新たな栽培漁業基本計画の策定において、概ね5年の計画期間の具体的な取組内容を検討し反映するなど、ご意見を踏まえながら引き続き取り組んでまいります。
2	黒川委員	重点対象種を生産額の多い上位3種に焦点を当て、対策を講じる点は理にかなっている。サケやコンブの資源減少傾向は、近年の海洋環境の変化などが大きく影響していると考えられることから、人為的な対応が困難な課題も多いが、その方向性は合理的と考えられる。 基盤技術が共通する養殖用種苗生産への技術の活用は、現在の漁業資源状況から推進すべき事項と考えられる。ただし、養殖用は家魚化方向であり放流とは異なる視点での生産が必要であることから、十分両者の違いを検討して進める必要がある。また、養殖は、種苗生産にとどまらず、製品生産・販売までのフォローも重要になる。	ご意見として承りました。 いただいたご意見は、本道の魚類養殖の課題として受け止め、事業化に向けた検討を進めてまいります。

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

3	小西委員	<p>・主要魚種の減産が続く中、栽培漁業が益々重要になることは理解できますし、推進に対する取組も評価しています。生産量を増やしていく試みと同時に、増養殖へのイメージアップ、さらに家庭での魚食（生食、加工品、冷凍品、調理しやすい販売方法）を増やしていく取組も両輪でお考えいただきたいと思います。</p> <p>・コロナ禍で外食離れが続き、この状態はややしばらく続きそうです。例えば、生産安定にあげているマツカワは特に一般家庭での認知度は低く、また分厚い皮など家庭での調理がしにくい、外食向きの魚です。外食産業からの需要が期待できない中、高級魚の家庭へのアプローチを考える必要があると思います。</p> <p>・天然魚が減産しているので、養殖に力を入れる。確かにそうなのですが、そのままを発信すると「養殖魚は天然魚の代替品」というイメージにつながりかねません。養殖魚ならではの強み、魅力を見出し、消費者へ正確な情報（薬品投与など人工的につくられたイメージが根強い）を伝える取組もお願いします。</p> <p>・民間企業との連携やマーケットインの発想はとても良いと思います。</p>	<p>・栽培漁業の推進による生産増大とともに、イメージアップや魚食機会の拡大に向けて取り組んでまいります。</p> <p>・家庭での魚の消費を増やすため、生産者団体等が行う販売促進の取組に支援を行っているほか、量販店において漁獲が増加しているマイワシの料理レシピを配布する取組などを実施しており、今後も継続して参ります。なお、高級魚の家庭へのアプローチについては、ご意見として参考にさせていただきます。</p> <p>・いただいたご意見は、今後の本道の魚類養殖の事業化に向けた取組の参考にさせていただきます。</p> <p>・ご意見として承りました。</p>
4	竹田委員	<p>弊社のように水産物の流通に携わる会社としても水産物の回復・増大・安定は非常に重要な問題であり、どの取り組みがおろそかになっても厳しいと思われます。</p> <p>また、生産量の増大が喫緊の課題とは思いますが、最終的には生産物の価格安定等が維持されなければ、継続は難しいと考えます。ひいては、漁業者の減少に歯止めがかからないとも考えられます。</p> <p>これらの事から、魚食普及推進等の販売戦略についても今後は力を入れて行く必要があると思いますが、その点はどのようにお考えでしょうか。</p>	<p>ご意見として承りました。</p> <p>引き続き生産増大に取り組むとともに、消費拡大を進めていくことが重要と考えており、水産物の価格安定に向け、生産者団体等と連携した国内外へのPR活動や輸出環境の整備などを行い、道産水産物の消費拡大と流通の円滑化に向けた取組を進めてまいります。</p>

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

5	成田委員	<p>「バリューチェーンの連携」について、近年愛媛では「みかん鯛」のように地元の特産品とかけ合わせた水産物、加工品が開発されていますが、北海道では、同様な水産品の開発等は検討されているのでしょうか。もしくはすでに開発されているのでしょうか？</p> <p>北海道は農産品も数多く、一方で出荷できないような野菜、果物もあると思います。フードロスの観点からも農産と水産の連携をより高め、餌料コストと付加価値の両面で魅力ある栽培漁業となっていってほしいです（簡単な話ではないということも理解はしておりますが）。例えば、酒造業界でも酒粕は多くは捨てられてしまったり、肥料とされていることがほとんどです。最近ではスイーツにしたりといった加工品転用も増えてきましたが、まだ多くはありません。牛の餌料として食べさせることでブランド牛を開発し始めたりという事例もございますので、魚や貝の餌料に転換することができたら面白いかと思います。</p>	<p>道内の特産品とかけ合わせたブランド水産物は現在開発されていませんが、白菜を餌料に活用するウニ養殖は道内でも一部地域で行われています。</p> <p>餌料コストの低減は養殖業の重要な課題であり、北海道立総合研究機構水産試験場では大豆かすなど廃棄に回されている原料を有効利用した餌料の開発に取り組んでいるところです。 いただいたご意見は参考にさせていただきます。</p>
6	坪江委員	<p>・環境の変化・生産性と労働不足など、栽培漁業が必要な意味が理解できました。その割に「栽培漁業」という言葉にはまだ馴染みが薄いと感じます。「栽培漁業」という言葉がもう少しアピールされても良いのかと思います。</p> <p>・昨年、ホタテの消費量が低迷しており、消費拡大に力を注いでいたと感じます。新型コロナウイルスの蔓延状況にもよると思いますが、需要と供給がどうなのか気になりました。需要と供給についてお聞きします。</p>	<p>・ご意見として承りました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、外食需要が減少している一方で、家庭向けの消費が増えている現状にあることから、今後も生産者団体等と連携した販売促進に取り組んでまいります。</p>

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

7	糠塚委員	<p>栽培漁業の推進方向については、水産資源の安定的な確保を図り、漁業・水産加工業、並びに地域経済の振興・発展に寄与することから異論はありませんが、栽培漁業に関し次の点についてご検討をお願いいたします。</p> <p>①日本海ニシンの放流事業により安定したニシンの漁獲が行われており、感謝申し上げます。しかし、卵を抱えているメスについては生鮮出荷や加工用原料としての需要はありますが、オスのニシンは、加工用原料としての利用価値が低いため、この有効的な利用方法や需要喚起等の対策をお願いいたします。</p> <p>②最近水揚げされる秋サケやニシンの魚体が細くなっているのが気になります。海水温が影響しているのか、餌となるプランクトンが影響しているのかわかりませんが、何らかの調査をされてはいかがでしょうか。</p>	<p>①ニシンについては近年漁獲が増えている魚種であることから、飲食店でのフェアの開催などにより、消費拡大に向けた取組を進めてまいります。</p> <p>②水温などの環境データやプランクトン発生量のほか、秋サケやニシンの漁獲物の体サイズや年齢組成等のモニタリングを北海道立総合研究機構水産試験場などと連携して行っており、引き続き取り組んでまいります。</p>
8	藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業者の経営安定や地域を守るため、資料の生産回復、生産増大、生産の安定に掲げている魚種に力を入れて取り組んでいただきたい。 ・ 生産増大の魚種等で、「アカモク」のように健康や美容面で注目されている魚海藻等も検討しては如何でしょうか。 ・ コンブ養殖の件ですが南かやべ漁協で発生している、ホッケによる食害について、他の地域でも発生しているのでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご意見として承りました。 ・ ご意見として承りました。今後、取組を進める魚種の検討にあたって、技術開発の状況により可能性がある魚種など幅広く検討してまいります。 ・ 北海道立総合研究機構水産試験場との連携により、南かやべ漁協以外にも、渡島総合振興局管内の一部漁協で同様の事例が発生していることを把握しております。

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

9	堀委員	<p>[秋サケ・ホタテガイ・コンブの生産回復について]</p> <p>①ホタテガイのへい死は、噴火湾のほか、留萌管内沿岸でも数年毎に発生している。さらに、稚貝の成長も思わしくない事象もあるので、検討してもらいたい。</p> <p>②留萌管内沿岸でホタテ稚貝の養殖には多くのコスト（時間と労働力）が必要であり、特に春の稚貝出荷時期は1軒あたり相当数の労働力人員が確保となっている。このため、生産・出荷体制の改善の支援を検討してもらいたい。</p> <p>[新たな増養殖の推進について]</p> <p>①ナマコの増養殖の拡大による生産増大と合わせて、密漁対策の強化が必要ではないか。漁業者や漁協が増養殖に取り組み水揚げの向上につながるために、時間と労力を費やし、費用負担をしていることから密漁行為に資源を損なわれることは許されないと考える。</p> <p>②ムール貝の養殖技術開発の推進とともに、消費の向上につなげる取り組みも必要ではないか。消費拡大が付加価値の向上にもつながるものと期待できるのではないか。</p> <p>[地先種の生産安定について]</p> <p>①ウニ、アワビの地先種の増養殖には、他の魚介類の産卵に適する環境形成に藻場の再生による環境整備が重要と考える。</p>	<p>①引き続き水産指導所による状況把握に努めるとともに、北海道立総合研究機構水産試験場などと連携した海洋環境のモニタリングや技術指導に引き続き取り組んでまいります。</p> <p>②労働力確保に関し道では高齢者や女性の働きやすい環境づくりに向け、就労環境の向上に資する施設の整備を進めているところです。なお、生産・出荷体制の改善に資する共同利用施設の整備については、国の「浜の活力再生・成長促進交付金」事業の活用が可能です。</p> <p>①海上保安部や警察と連携した取締や、密漁の多発地域に対する漁業取締船の重点配置、漁業団体が設置する監視カメラや改正漁業法の罰則強化を周知する啓発看板に支援するなど、密漁防止対策に取り組んでいるところであり、現在、一部地域で試行されている水中音響を活用した密漁監視システムについて、国費などを活用した導入支援を検討するなど、今後とも、漁業者をはじめ、関係機関とともに密漁対策の強化を図ってまいります。</p> <p>②ムールガイの養殖技術開発の推進や消費拡大への取組については、引き続き水産試験場と連携して取り組んでまいります。</p> <p>①藻場は、水産資源の生息環境にとって非常に重要と考えており、藻場の保全や創出について引き続き取り組んでまいります。</p>
10	盛田委員	<p>生産の回復・増大・安定に向け、取組内容については、全道各地域で必要とする内容と考える。市町村及び単協の取組を推進する上で必要となる運営費（事業費）に対する支援なども同様に考える必要があると思う。</p>	<p>道では現在、太平洋海域のマツカワや日本海海域のニシンの取組に対し、種苗放流の事業費に対する支援を行っております。今後、栽培漁業の推進方向に基づく取組を進めていくうえでの財政支援については、必要に応じて検討してまいります。</p>

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

11	渡邊委員	<p>・秋サケの栽培漁業の中で、DHA高含有餌料の投与とありますが、この餌料の内容物はどのようなものですか？</p> <p>・高齢化による労働力の減少は今後増々増加する現状で、ドローン画像の活用や、作業工程の機械化をすることは必要不可欠であると思われます。</p> <p>・労働力を強化するために、労働環境の整備はもちろんのこと、学生や若者に受け入れられるように、漁業従事者の生活を魅力的に映像（例えば、俳優を使い短いドラマ仕立てにして）制作して、全国に呼びかけるも一手かと思ひます。（以前、ブリの養殖の映像を見せて頂き、強く心に残ったので）</p>	<p>・魚類から精製した不飽和脂肪酸であるDHAを含有する油脂を通常のサケ稚魚用の餌料に混合したものです。</p> <p>・ご意見として承りました。</p> <p>・道としてもイメージアップに繋がる動画を用いた情報発信の重要性は認識しており、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
----	------	---	--

○報告事項（1）北海道漁業生産状況について[資料2]

番号	委員名		対応等
1	藤原委員	<p>漁業生産額が3,000億円から、近年は2,000億円と1,000億円も減少し、漁業者の経営も厳しいが、漁協経営も販売手数料の大幅な減収で厳しい状況になっている。この状況が暫く続くと思料されることから、漁協の体力が落ちてしまわないうちに、漁協合併や事業統合等について道が音頭をとって系統・漁協と議論していただきたい。</p>	<p>漁協経営の基盤強化と効果的推進を図るため、引き続き漁協合併促進などに取り組むとともに、北海道漁協経営強化推進本部の一員として、漁協の財務改善計画の策定や進捗管理について、指導に努めていきます。</p>

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

○報告事項（2）新型コロナウイルス感染症の北海道水産業の影響・対応について[資料3]

番号	委員名		対応等
1	小西委員	<p>・外国人技能実習生に変わる人手として、地域の障がい者等との連携は難しいでしょうか？農業の分野では農福連携が進められていますので、そのノウハウを生かして陸上作業や加工作業で障がい者の方の力を借りるのも一案かと思えます。</p> <p>・水産エコラベル認証取得の支援、学校給食への水産物提供、とても良い取り組みだと思います。学校給食は可能であれば、教育委員会と連携しながら、授業や給食メニューのプリントなど何かの形で漁業や水産物のことを伝え、学びながら味わう給食であってほしいと思います。</p> <p>・生食用冷凍水産物の販路拡大に向けたモデル的な取組の、「モデル的な取組」について教えてください。コロナ禍の現在、そして今後も冷凍産物は重要になると思えます。意見というよりは、どのような取組があるのか私の仕事の的に興味がありおうかがいします。</p>	<p>・道では、水産加工場を中心に「水福連携」を推進しており、引き続き、地域の状況など関係部局（保健福祉部など）と情報共有を図っていきます。</p> <p>・令和2年度については、コロナ対策として学校給食への道産水産物の無償提供を行いました。合わせて水産物を紹介する資料を学校に提供し、生徒児童への魚食普及や食育にも取り組んでいただいたところです。引き続き、学校給食での提供機会の増加や水産物への理解促進に向けて、生産者団体等が実施する取組に支援を行ってまいります。</p> <p>・令和2年度事業で、ブリ、イワシ、ヤナギダコについて、高度冷凍技術を利用した生食（刺身）向け製品の試作を実施し、商品化に向けた検討を行っています。</p>
2	竹田委員	<p>道産水産物の需要喚起等の取り組みや生食用冷凍水産物の販路拡大に向けた取り組み支援を更に強力にお願いしたいと思います。</p>	<p>道産水産物の需要喚起に向けて、近年漁獲量が増えている魚種の消費拡大に向けたPRを実施するとともに、生産者団体等が取り組む販売促進などに支援を行うほか、輸出拡大の推進を図るため、生食可能なイワシ冷凍製品のPRを行ってまいります。</p>
3	糠塚委員	<p>北海道では、外国人技能実習生等を受け入れる際、国による新型コロナウイルス感染症に関する水際対策に対応するため「北海道外国人材待機費用緊急補助金」により宿泊費用が支援されておりますが、1月14日に緊急事態宣言が発出され、外国人材の入国制限措置が取られ、外国人材の受入れが停止されております。</p> <p>そのため、折角創設いただいた制度についても当面利用できない状況にあることから、3月19日が申請期限となっている「北海道海外人材待機費用緊急補助金」の申請期間の延長や予算の上積みについてお願いいたします。</p>	<p>3月19日以降も引き続き補助が行えるよう、経済部において令和3年度予算案を北海道議会へ提出したところです。</p>

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

4	成田委員	<p>・漁業の生産状況が数量が好調の中、新型コロナの影響で金額に反映されていかないのが大変心苦しい限りかと思えます。</p> <p>中食、宅配サービス等、盛況となっている分野に北海道の魅力あふれる水産加工品が進出していく道筋を是非積極的に整えていただきたいです。</p> <p>スーパー等でも、冷凍の水産加工品（温めるだけ、焼くだけの状態のもの）が目に触れるようになってきたと思えます。トドック、Oisix等、安心・安全をうたった食材の宅配サービス等でより北海道産の水産物が登場することを期待しています。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、外食需要が減少している一方で、ネット販売や家庭向けの消費が増えている現状にあることから、生活スタイルの多様化に対応した道産水産物の販売促進などについて、生産者団体等と連携した取組を進めてまいります。</p>
5	藤原委員	<p>・コロナ禍で資金繰りに窮する漁業者並びに漁協に対する、利子補給による無利子の運転資金融資や既に借入している近代化資金の期限延長措置に迅速に対応して頂き感謝申し上げます。</p> <p>・今後出口対策として、リーマンショック時に導入した緊急保障制度並みの「長期資金」を創設していただき既存借入金の平準化と償還期限の延長を図り漁業者の経営安定化に資する施策を強く要望いたします。</p>	<p>・漁業者及び漁協に対する運転資金の無利子化及び漁業近代化資金の条件変更措置については、令和3年度も引き続き実施していきます。</p> <p>・ポストコロナにおける漁業・漁協経営の安定と生産活動の継続に向け、関係機関と連携しながら、必要な対策を検討するとともに、必要に応じ国に要請していきます。</p>
6	堀委員	<p>①漁業及び水産加工業の人手不足の対応として、外国人技能実習生に依存する部分も多いので、主な対応策の中の2労働力の確保の一層の支援強化が必要ではないか。</p> <p>②外食産業における消費の減退や流通面の停滞への対応として、当面の間、ネット販売等によるお取り寄せや地方発送への支援を強化し、鮮魚類の自家消費の拡大を図っていくことも必要ではないか。</p>	<p>①令和3年度も継続して実施するため、経済部において予算案を北海道議会へ提出しているところであり、引き続き、経済部と連携し、事業の推進を図っていきます。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の影響により、外食需要が減少している一方で、ネット販売や家庭向けの消費が増えている現状にあることから、生活スタイルの多様化に対応した道産水産物の販売促進などについて、生産者団体等と連携した取組を進めてまいります。</p>
7	渡邊委員	<p>子供の魚離れが叫ばれる中、給食に道産水産物を提供したことはとても良いことだと思いますが、内陸部に住む子供達にも魚の魅力と美味しさを伝える取り組みがなされてほしいものです。</p>	<p>令和2年度の学校給食への道産水産物の無償提供については、道内のほぼ全ての小中学校等を対象に実施し、内陸部の学校からも好評をいただいております。引き続き、生産者団体等が実施する取組に支援を行うなど、学校給食での提供機会の増加や水産物への理解促進に向けた取組を進めてまいります。</p>

第9期第4回北海道水産業・漁村振興審議会（書面開催） 委員からの意見等と対応について

○その他議題以外

番号	委員名		対応等
1	小西委員	今年は大人数が集まったの会議開催が難しいと思いますので、オンラインでの会議開催をご検討いただけると幸いです。	各委員の皆様により活発なご議論をいただけるよう、次回以降の審議会については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方法について検討してまいります。
2	坪江委員	FACEBOOK「どさんぎょ」を読ませていただいています。生産状況と直接関係ないかもしれませんが、「どさんぎょ」に載っている情報を他の媒体でも多くの方に目にしてもらえる機会があったらどうかと思います。北海道の魚を身近に感じ食べてみたいに繋がると思います。	「道内漁協の紹介」や「道産水産物を買って食べてみた」などの情報についてはホームページにも掲載しておりますが、一層の情報発信のため、報道をはじめ色々な媒体を通じて「どさんぎょ」を積極的にPRしていきます。